千葉県におけるアカコッコ *Turdus celaenops* の記録

桑原和之・茂田良光・野口一誠・富谷健三

Records of Izu Island Thrush *Turdus celaenops* in
Chiba Prefecture, Central JapanKazuyuki KUWABARA, Yoshimitsu SHIGETA, Kazunobu NOGUC
and Kenzou TOMIYA

アカコッコ *Turdus celaenops* は日本固有種で、伊豆諸島とトカラ列島には留鳥として繁殖するが、分布は局所的である。個体数は伊豆諸島の三宅島、御蔵島、青ヶ島に多く（内田 1960）、静岡県下田市や神奈川県初島など繁殖地の周辺でも越冬が知られる（日本鳥学会 2000、日本野鳥の会神奈川支部 1998、山階鳥類研究所 1997）。トカラ列島では冬期に減少する（小倉 私信）。伊豆諸島では、アカコッコの個体数は移入動物による捕食や噴火による生息環境悪化のため激減してしまったので山本（2002）、ごく稀に越冬が確認されている伊豆半島や房総半島での越冬記録も今後は少なくなると予想される。千葉県（1976）では、アカコッコは 5 例しか報告されておらず、写真は掲載されていない。ここでは、非繁殖期に写真記録が得られたアカコッコ 2 例の報告をする。

観察記録

第 1 例目は、1983 年 12 月 15 日から 1984 年 4 月 7 日まで千葉県銚子市清水町（140° 51′ E, 35° 44′ N、標高約 30 m）の雑木林内の住宅地にある餌台に飛来して、越冬した雄成鳥である（図 1）。この個体はジャツ・ジャツと鳴き、ヒヨドリやツグミを追い払い給餌された餌を食べていた。頭部が黒色で尾も黒く、赤褐色の頭部と胸部の羽色の境界は非常に明確であった。さらに、アイリングは太く黄褐色で目立っていた。アカコッコに類似するアカハラ *Turdus chrysolaus* の亜種オオアカハラ *Turdus chrysolaus orii* の頭部は黒褐色であるが、尾が黒色でなく褐色であり、胸部の赤褐色の羽毛との境がアカコッコほど明確ではない。この越冬した個体は、オオアカハラの色彩とは大きく異なり、アカコッコと同定できた。アカコッコの雌では、頭部の羽色は、黒色には見えない。この個体の頭部には、褐色の羽色は見られず全体が黒色で尾羽が黒いことから雄と識別した。さらに、翼の雨覆を観

キーワード：アカコッコ, *Turdus celaenops*, アカハラ, *Turdus chrysolaus*, オオアカハラ, *Turdus chrysolaus orii*, 越冬。

Key words: Izu Island Thrush, *Turdus celaenops*, Brown Thrush, *Turdus chrysolaus*, Large Japanese Brown Thrush, *Turdus chrysolaus orii*, Wintering.

図 1. 1983 年 12 月 15 日から 1984 年 4 月 7 日まで越冬したアカコッコ
Turdus celanops 雄成鳥. 千葉県銚子市清水町 2814 で 1984 年 1 月撮影.
Fig. 1. Izu Island Thrush photographed at Choshi City, Chiba Prefecture.

察したところ、幼羽および第 1 回冬羽では先端にバフ色の斑が見られるが、この個体には見られなかったので成鳥とした。1984 年 4 月 7 日までパン、カキ、リンゴ、バナナなどを餌台で採食し、2～3 m の至近距離で観察することができたため、詳細な羽色の観察と写真撮影ができた。4 月 3 日朝、さえずりも確認した。なお、この個体の写真は、1984 年 1 月 19 日の読売新聞と東京新聞に掲載された。

この観察記録の他にも 1984 年 1 月に銚子市海鹿町の 2 カ所、笠上町の 1 カ所で目撃されたという情報が得られた。ただし、詳細は不明で写真などによる確認ができなかった。

第 2 例目は、1992 年 4 月 25 日から 5 月 2 日まで、千葉県山武郡山武町埴谷 (140° 23' E, 35° 39' N) で見られた雄成鳥である。この個体は、標高約 40 m のスギ *Cryptomeria japonica* とヒノキ *Chamaecyparis obtusa* の混交林に約 10 日間滞在した。同定の根拠は、第 1 例目個体と同様に頭部が黒色で尾も黒く、胸部が赤褐色で明確に境目があり、アイリング

図 2. 1992 年 4 月 25 日から 5 月 2 日まで滞在した
アカコッコ *Turdus celanops* 雄成鳥. 千葉県
山武郡山武町埴谷で 1992 年 5 月 2 日撮影.

Fig. 2. Izu Island Thrush photographed at Sanbu Town, Chiba Prefecture.

が黄褐色であったことである(図2)。嘴や脚も目立つ黄色であった。このようにオオアカハラの色彩とは大きく異なっていた。この個体も、頭部が黒色であったことなどから、雄成鳥とした。林内の地面や車道で、採食する姿が観察され、4月29日と5月2日にさえずった声を録音した。銚子市で確認された個体とはやや異なった単調な声でさえずっていた。この個体の写真は千葉県(2000)に掲載された。

考 察

アカコッコは繁殖地では普通に見られる種であり、三宅島では、1980年代前半まで個体数が多く、簡単に観察できた。1960年代までは、越冬期にも繁殖地で普通に見られたようである。また、伊豆半島や房総半島で稀に越冬が確認されており(静岡県鳥類編集委員会 1998)、真鶴半島でも写真が撮影されている(浜口 1991)。ただし、アカハラの亜種であるオオアカハラの観察は報告されていない。伊達コレクション鳥類標本目録では、オオアカハラは静岡で1933年5月に1個体が採集されているが、アカコッコの本州での標本の記載はない(島根県立博物館 1978)。三島コレクションからもアカコッコは本州から標本が得られていないばかりか、オオアカハラの記載もない(Kawaji et al. 2002)。これまでに、オオアカハラをアカコッコとして観察した例が、写真記録などの確認がないまま報告されていた可能性がある。したがって、オオアカハラの報告がなく、アカコッコの記録のみが残されている地域では、この2種が混同されていた可能性があると考えられる。

アカコッコの雌とアカハラの雌の識別は難しいが、アカコッコの背と腹はより赤味が強い。さらに、最長初列風切(wing point)が、アカハラとアカコッコでは異なっている(茂田 未発表)。アカコッコでは、すべての性・齢においてwing pointがP6またはP7であるのに対し、アカハラでは亜種オオアカハラを含み、P8またはP7であることで識別できる。また、アカコッコはアカハラよりP5とP9との差が小さく、P5がP9より長いものと短いもの、およびP5とP9がほとんど同長のものがあるが、アカハラは亜種オオアカハラを含み、すべてP5がP9より短い(図3)。

千葉県(1976)などでの、アカコッコの記録は客観的な証拠となる標本や写真が掲載された報告でないため、確実な記録とは言えない可能性がある。日本鳥学会(2000)で採用されている千葉県のアカコッコの記載は、この千葉県(1976)などから引用されたと思われる。そこで、今回の報告が千葉県における初めての確実な報告例となると考えられる。前述のように、個体数が減少していることから、本種の観察は難しくなるだろう。本種の越冬生態はほとんど知られていないので、保護対策を立てる上でも今後は、越冬期の生息状況の把握が必要であろう。

謝 辞

本報告を行うために山階鳥類研究所資料室の標本を閲覧させて頂いた。環境科学株式会社の小倉豪氏にはトカラ列島の生息状況についてご教示していただいた。山階鳥類研究所資料室の鶴見みや古、百瀬邦和、平岡孝の各氏には、標本と図書の閲覧に便宜を取りはからっていただいた。また、箕輪義隆氏には、本稿のために図3を描き起こして頂いた。深く感謝の意を表す。

図 3. アカコッコ *Turdus celanops* (上の左から P5 と P9 がほとんど同じ個体、P5 が P9 より長い個体、短い個体) と、アカハラ *Turdus chrysolaus chrysolaus* (下左) およびオオアカハラ *Turdus chrysolaus orii* (下右) の外側初列風切 (山階鳥類研究所所有の標本から箕輪義隆作図)。

Fig. 3. Comparison of wings of Izu Island Thrush *Turdus celanops* (top three drawings), Japanese Brawn Thrush *T. c. chrysolaus* (bottom left) and Large Japanese Brown Thrush (bottom right) Sketched by Yoshitaka Minowa from specimens Stored the Yamashina Institute for Ornithology.

要 約

アカコッコ *Turdus celanops* は、伊豆諸島とトカラ列島でのみ繁殖する日本固有種である。本種は、本州では房総半島と伊豆半島で稀に越冬期の記録がある。1983 年 12 月 15 日から 1984 年 5 月 7 日まで雄成鳥が千葉県銚子市 (35° 44' N, 140° 51' E,) で越冬し、また 1992 年 4 月 25 日から 5 月 2 日に雄成鳥が千葉県山武郡山武町 (35° 39' N, 140° 23' E,) で観察された。この 2 例が千葉県における初めての確実な報告例となる。

Summary

The Izu Island Thrush *Turdus celanops* is an endemic Japanese species that breeds and inhabits all the year round in the Izu and Tokara islands. The distribution is sporadic throughout the range. Until the 1980s, substantial populations were found on the breeding islands of Miyake, Mikura and Aogashima in the Izu group, but these populations are being adversely impacted due to predation by exotic species, and also by recent volcanic eruptions. Some winter records of this species have been obtained on the Izu and Boso Peninsulas, and on Hatsushima Island in Kanagawa Prefecture. The Tokara population has also been noted to decrease during the winter months. In the past, some observations recorded as this species may actually have been of the large Japanese Brown Thrush *Turdus chrysolaus orii* or the Japanese Brown Thrush *T. c. chrysolaus*. In this paper, photographs of two individuals obtained in Chiba Prefecture are examined, and determined to be of the Izu Island Thrush. One individual (Fig.1) was observed around Choshi City, on the Pacific Ocean Coast, from December 15th 1983 to April 7th 1984. The black coloring on the head and tail stood out distinctly against the reddish brown on the head and chest. In addition, the eye ring was thick, and distinctive yellowish brown. The second individual was observed at Sanbu Town, on the Boso Peninsula, from April 25th to May 2th, 1992. Distinguishing characteristics were similar to the first individual, including distinctive yellow beak and legs. These two records clearly confirm that the Izu Island Thrush does winter in Chiba Prefecture, and will help to clarify the seasonal movements of this endemic species.

For the Izu Island Thrush, the wing point is either at P6 or P7, while on both subspecies of the Japanese Brown Thrush the point is at P7 or P8. In the Japanese Brown Thrush subspecies, P5 is always shorter than P9, while in the the Izu Islands Thrush P5 may be the same size as P9, or slightly shorter, or even a bit longer than P9. (Fig.3).

引用文献

- 千葉県, 1976. 千葉県産鳥類目録. 千葉県.
- 千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 - 千葉県レッドデータブック - 動物編. 千葉県.
- 浜口哲一, 1991. 初島にアカコッコはいたか? はばたき 235:2-3.
- Kawaji, N., Tojo H. and Kitahara E., 2002. Catalogue of T.Mishimas collection bird skins. Bull. FFPRI 1 (385):245-323.
- 日本鳥学会, 2000. 日本鳥類目録 改訂第6版. 日本鳥学会, 帯広.
- 日本野鳥の会神奈川支部, 1998. 神奈川の鳥 1991-96 — 神奈川県鳥類目録(企) — . 神奈川野鳥ライブラリー 4. 日本野鳥の会神奈川支部. 東神奈川, 303pp.
- 島根県立博物館, 1978. 伊達コレクション鳥類標本目録. 島根県立博物館.
- 静岡県鳥類編集委員会, 1998. 静岡県の鳥類. 静岡県環境部自然保護課, 静岡.
- 内田清之助, 1960. 天然記念物・鳥類編. 創元社, 東京.

山本裕, 2002. アカコッコ. 環境省自然環境局野生生物課(編)改定・日本の絶滅のおそれのある
野生生物-レッドデータブック2. 鳥類. 自然環境研究センター, 東京
山階鳥類研究所標識研究室, 1997. 平成8年度鳥類標識調査報告書. 山階鳥類研究所, 我孫子.

桑原和之 kuwabara@chiba-muse.or.jp

千葉県立中央博物館 〒260-8682 千葉県千葉市中央区青葉町 955-2

Kazuyuki Kuwabara kuwabara@chiba-muse.or.jp

Natural History Museum and Institute. Chiba 955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8682, Japan

茂田良光 shigeta@yamashina.or.jp

山階鳥類研究所 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 115

Yoshimitu Shigeta shigeta@yamashina.or.jp

Yamashina Institute for Ornithology. 115 Konoyama, Abiko-Shi, Chiba 270-1145, Japan

野口一誠

〒288-0063 千葉県銚子市清水町 2814

Kazunobu Noguchi

2814 Shimizu-Cho, Choshi-Shi, Chiba 288-0063, Japan

富谷健三

〒289-1223 千葉県山武郡山武町埴谷 1887-1

Kenzou Tomiya

1887-1 Haniya, Sanbu-Cho, Sanbu-Gun, Chiba 289-1223, Japan